市史だより

# がちまやぁ Gači-majaa

第２２号・２０１１年２月１０日（木）発行

年３回　（５・９・１月発行）

編集・宜野湾市教育委員会文化課　市史編集係

〒９０１－２７１０　宜野湾市野嵩１－１－２

問い合わせ・情報提供先

☎　（０９８）８９３－４４３０

Fax　（０９８）８９３－４４３４

E-Mail:Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

※宜野湾市役所のホームページで、バックナンバーも公開中!!!

HP:http://www.city.ginowan.okinawa.jp

## 新年あけましておめでとうございます

皆様にとっては、良い年を迎えられたことと思います。

お正月にはおいしいご馳走を召し上がりましたか。なかには田芋料理に舌鼓（したつづみ）した方もいるのではないでしょうか。宜野湾市は県内でも有数の田芋（ターンム）の産地で、特に大山の田芋は有名です。昨年 12 月 22 日(水) 付の琉球新報でもお正月用としての田芋の収穫の様子が掲載されていました。田芋は水田地帯、特に湧き水の多い水田（ターブックワ）で栽培されます。大山は琉球石灰岩からの湧き水が流れ込む湿地で、カーと呼ばれる湧き水が田んぼを潤（うるお）すことで田芋の栽培にとても適しているのです。田芋は良質美味で葉柄はムジと言われ、独特の香りと味わいがあり、誕生祝いにはムジの汁が作られました。芋は親芋に子芋、孫芋が付くことから子孫繁栄を意味し縁起のよいものとしてお祝いの料理によく使われますが、中でも田芋は欠かせないものとなっています。料理方法は、煮物、揚げ物、飲み物などですが、食後のデザート的な“田芋でぃんがく”は子どもから大人まで好んで食べられています。今回は少し趣向を変えて、田芋でぃんがくの作り方を紹介します。また、４-５ページは大山のカーについての特集です。そちらも合わせてご覧下さい。

### 材料（4 人分）

- ○田芋（蒸し）400ｇ
- ○お湯　1.5 カップ
- ○砂糖　100ｇ
- ○みりん　大さじ２
- ○塩　小さじ 1/6

①田芋は皮をむいて２ｃｍ角に切り、たっぷりの熱湯に５～7 分ゆで、ゆで汁をこぼす。

②①の中に分量のお湯を入れてしばらく煮、田芋がやわらかくなったら、砂糖・みりんを加えて弱火にし、木じゃくしで混ぜながら更に煮る。

③煮くずれて半つぶれになったら塩を加えて強火にし、つやを出して仕上げる。

④器にでぃんがくを盛り、みじん切りにしたレモンの皮を散らす。

参考文献

『安田ゆう子の沖縄料理』

那覇出版社

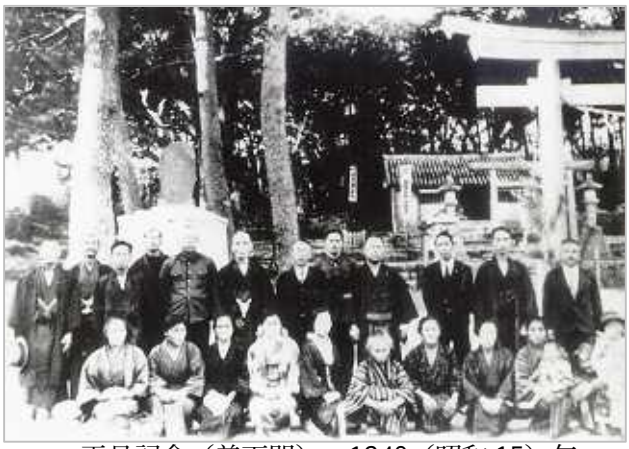
# 「二つの正月」の行方

## 旧慣未たに残りて

新正月を祝う習慣がすっかり一般化した感のある昨今ですが、今から100年以上も前の新聞記事は、当時の沖縄の旧正月を次のように伝えています。曰く、「旧慣未たに残りて旧正月が反て新年らしい景気あるは陽暦採用の日猶ほ浅きか故なるへし当地にては正月とし云へは一ヶ月殆と業を休みていと長閑(のどか)に遊ひ暮らすの習」(1901(明治34)年2月21日付『琉球新報』)。このように、新暦導入後も依然としてなお根強く残る「旧慣」としての旧正月が、「一ヶ月殆と業を休みていと長閑に遊ひ暮らす」ほどの賑わいとして報道されています。

## 「二つの正月」

この頃の沖縄社会は習俗の改廃、いわゆる「風俗改良運動」のただ中にあり、宜野湾間切(当時)でも公職者を中心に「改良運動」の組織化が進められました。しかし、庶民の実生活に強く根ざした慣習は一朝一夕で「改良」されるはずもなく、年日(トウシビー)をはじめとする正月行事の改廃は遅々として進みませんでした。主要な換金作物であったサトウキビの収穫後にあたる関係もあって、旧正月を祝う習慣もまた庶民生活に強く根付いており、宜野湾間切はもちろん、当時の沖縄一般の傾向として、官吏は新暦に基く新正月を、一般庶民は旧暦に基く旧正月をそれぞれ祝うといった、さしずめ「二つの正月」の様相を呈していました。



正月記念(普天間)　1940(昭和15)年

## 「上からの改善」

このような「二つの正月」は、新聞紙上では「陋風(ろうふう)」などとしてたびたび批判の対象となり、旧暦の廃止/新暦への一元化は沖縄社会の「後進性」を克服するものとしてさかんに啓蒙(けいもう)されました。と同時に、これら一連の「上からの改善」は国家統合としての性格を色濃く持ち、戦時体制期ともなると、「殊に“旧正月を廃止しませう”と県下各戸に回覧版(ママ)が廻され」(1942(昭和17)年2月27日付『大阪朝日新聞』)るほどの、息苦しいまでの「運動」に行き着きました。

新生活運動　1969(昭和44)年

近代を通して不断に啓蒙された新正月への一元化は、戦後もなお継続されました。戦後の新生活運動には自主性や主体性が掲げられましたが、なかには「発達した社会の落伍者になる」という、焦燥とも恫喝(どうかつ)とも取れる言葉も見られました。しかし、その甲斐なく新正一本化の浸透は戦後しばらくの間低調にとどまりました。

# 地域史協議会久米島大会

昨年の 11 月 25 日から 26 日の二日間にかけて、久米島町にて沖縄県地域史協議会の平成 22 年度の第２回研修会が開催されました。ちなみに第１回研修会は宜野湾市で５月に開催されています。（がちまやぁ 20 号に掲載）

## ●久米島の歴史･文化･自然●

研修会では初日、久米島についての講演・報告がなされました。内容は琉球王府時代（江戸時代から明治はじめ頃）の久米島の船を中心とした状況や仲里間切の地頭代（ジトウーデー）の系譜を位牌などから辿ったり、グスクとムラの関係の報告、また、久米島にはクメジマボタルやキクザトサワヘビなど固有種がいて、住民と協力し、赤土流出防止策を講じたり、子供達と共に植栽などを行ったりしていることが報告されました。

２日目は半日かけて、沖縄本島とは少し違う歴史・文化・自然を漂わせる久米島を一周しました。まず、土が沖縄本島とは違うということです。久米島の地質は溶岩などが固まった火山岩とサンゴ礁が起源の石灰岩からなっています。そのせいか？土を見てみると、赤土ではありますが、沖縄とは違い、赤茶色といった印象です。首里城正殿の彩色顔料も久米島から採取した赤土を使用したということです。また、銭田（ぜにた）というところでは戦前、金の採掘が行われていました。

島尻の石墓は、一見して城跡を思わせ、中には蔵骨器が多く納められています。宇江城（うえぐすく）は久米島で最も高い場所で、一般的に想像する沖縄の代表的城跡の中城城跡や勝連城跡とは違い、今帰仁城跡と似ています。いずれも安山岩の石を積み重ねて築いたものです。他に兼城（かねぐすく）御嶽（うたき）、天后宮（てんこうぐう）や蔵元跡、ウティダ石など久米島にしかないエピソードを持つ場所を巡りました。

島尻の石墓　一晩で南蛮まで往復した女の人の墓という伝説が残っています。

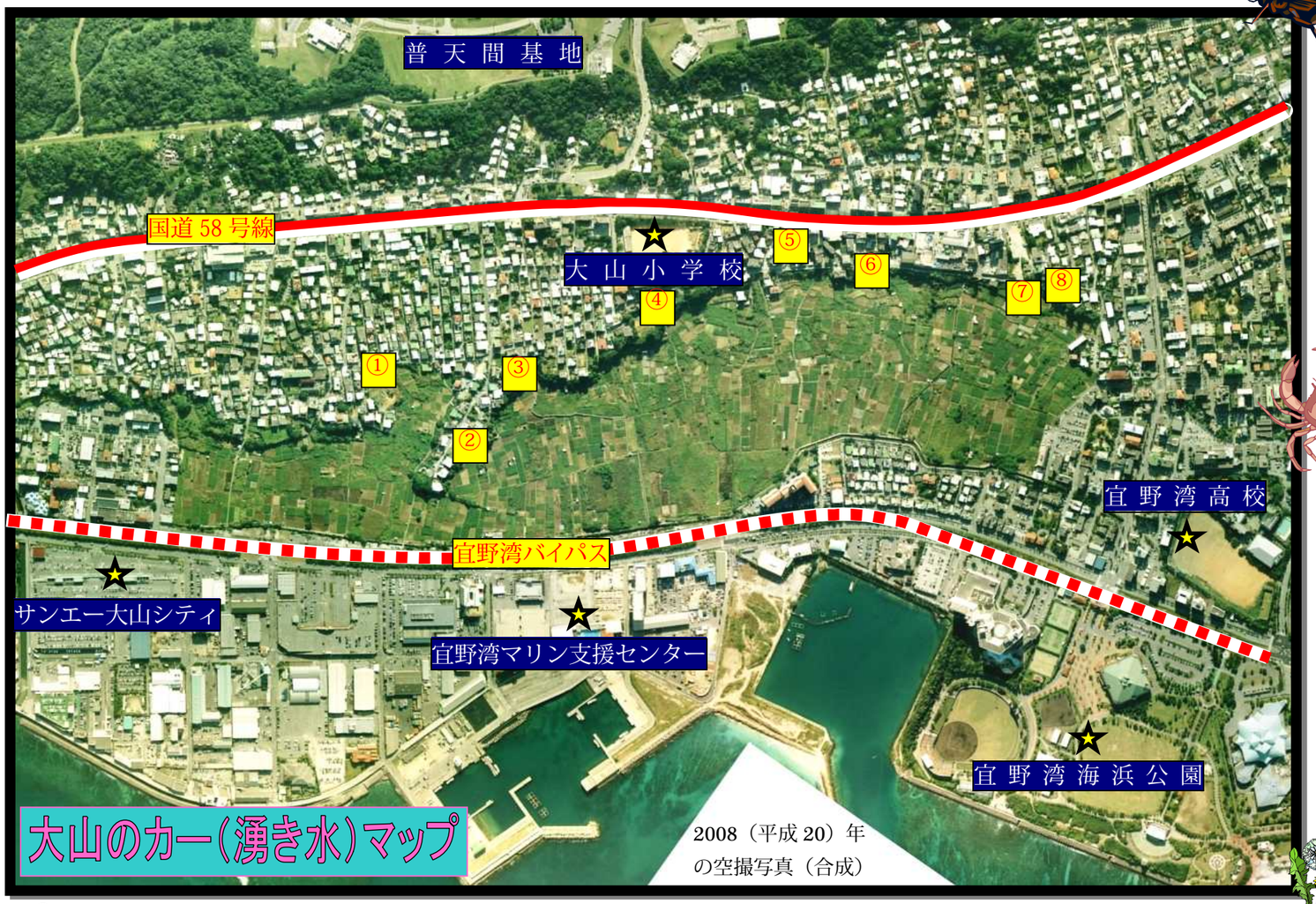
宇江城　写真は一の郭と二の郭です。眺望が素晴らしく、一の郭から久米島全土、東シナ海、はての浜が一望できます。

## 地域史協議会

地域史協議会は、主に市町村史の事務局が集まり、情報交換やそれぞれの地域の歴史・文化等を知り、地元を再評価する場でもあります。しかし、市町村の担当者だけが参加するのではなく、個人でも歴史・文化等に興味を持つ方や字誌を作ろうとなされる方こそが参加して欲しい場でもあります。これらの方々の参加をお待ちしております。

# ★宜野湾大山のカー（湧き水）★

田芋の産地である大山の「カー」（湧き水）は、田芋を育てる水田に水を与えるだけでなく、そこに生息する植物や生き物達にもなくてはならないものとなっています。その空間は人と生物が共存し水と緑が豊かな、都会の中のオアシスとも言えます。今回はその環境をいつまでも残していくためにも、重要な存在である「カー」を紹介します。




大山のカー（湧き水）マップ

## ①ヒャーカーガー

細長い形の湧き水。戦後米軍基地からガソリンが地下水系に流れ込み、カー周囲の水田を汚染したことからガソリンガーとも呼ばれていました。

## ②ウーシヌハナガー

水田地帯につき出したウーシヌハナーと呼ばれる段丘の中間にあります。

## ③ヤマチヂャガー

現在の水量はあまり多くありませんが、のんびりとすごすのにうってつけの場所です。

## ④アラナキガー

水量が多く、戦前、那覇の水源として利用されていました。

## ⑤ミジカシガー

以前は女性が頭に桶をのせたまま水を入れていたというほど、高い所から水が落ちてきていたそうですが、現在の水量はあまりありません。

## ⑥マジキナガー

もともとは国道58号線側にありました。現在は農業用水に利用しています。

イキカガー

イナグガー

## ⑦ヒージャーガー

水量の豊富な湧き水で、メンダカリヒーガーとも言われています。ウブガーとして利用され、かつてはイキガガー（男性用）イナグガー（女性用）に分かれていました。

## ⑧カーグヮー

湧き出た水が大きな池になるくらいの水量がありましたが、今では大雨の時にしか水が湧き出てきません。

# 沖縄が生んだ芸術家　山田真山

みなさんは「山田真山（やまだしんざん）」という人物をご存知でしょうか？

山田真山は沖縄出身の日本画家であり、彫刻家でもあります。代表的な作品としては明治神宮聖徳祈念絵画館の壁画「琉球藩設置」、そして沖縄県民によく知られている作品としては、糸満の平和祈念公園内にある平和祈念堂に安置された大きな「平和祈念像」が挙げられます。この平和祈念像は真山が 72 歳の時に制作に取りかかり、亡くなるまで 20 年余りの歳月をかけて全戦没者への追悼と世界平和を希求して制作された大作です。

沖縄の偉大な芸術家、山田真山ですが実はここ宜野湾市に大変縁のある人物なのです。今回はその山田真山と宜野湾市の関係を辿ってみたいと思います。

山田真山画伯

（『沖縄の偉人･画伯　山田真山』より）

## 沖縄芸術界の巨匠「山田真山」

山田真山は 1885(明治 18) 年に那覇市壺屋出身で本名は渡嘉敷兼慎（けんしん）、童名は真山戸（まやまと）といい、山田真山の〈真山〉はその童名からとったものです。

14 歳の時に上京し苦労の末、東京美術学校(現在の東京芸術大学) 彫刻科に入学、かの有名な高村光雲に師事しました。

在学中の真山は彫刻のみならず、日本画も学び優秀な成績を修めます。また、美術学校入学時から光雲の弟子である山田泰雲に指導を受け、姓を渡嘉敷から山田に改めました。

平和祈念堂内の平和祈念像

卒業後は、清国北京芸徒学堂に 1 年間教授として赴き、帰国後は日本画を小堀鞆音（ともと）、彫刻を前述の高村光雲に、工芸を峰岸宝哉（ほうさい）に師事して制作に励み、帝展・文展などに出品します。

その後、郷里である沖縄に帰り伝統工芸の復興に貢献しながら、金城安太郎や具志堅古嘉といった若い芸術家達を育てました。

# 宜野湾での山田真山の足跡

## 戦後沖縄での山田真山の活動

THE DAILY Okinawan

5,000 PERSONS FLEE MISSISSIPPI FLOODS

Western Powers Safer Police Force,—Gromyko

TRUMAN SAYS U.N. MAY BE CALLED TO RESTORE HUNGARIAN SOVEREIGNTY

CONGRESS CLAMORS FOR MORE THAN TALK

FACT AND FICTION TONIGHT

Roosevelt Estate Valued A $ 2,116,673

President Of Hungary Assembly Flees To U.S. Zone Of Au. trio

SHIPPING NEWS

OKIES

CALL CITIZENS TO PROTECT LIGHT PLANT

Douglas Asks Checkup; A.T.C. Grounds C-54's

Civilization Without U.S. Will Perish, Says General Eisenhower

FACES HARSHER IN TREASON TRIAL

WEATHER

デイリー・オキナワン(真山の挿絵)

終戦後真山は、当時普天間にあった米軍向けの日刊新聞「デイリー・オキナワン」の挿絵を担当します。実際に出版されたデイリー・オキナワンに残されている真山の作品は少ないのですが、この新聞のために描き下したと見られる作品の下絵は現在、沖縄県立芸術大学に数多く所蔵されています。真山の描いた作品の内容は、古都首里の龍譚池(りゅうたんいけ)を描いた風景画、八重山の少女を描いた「黒島口説(くどぅち)」や、機を織る母と子を表現した人物画等、沖縄の歴史風俗に関連したものが主だったようです。その後、普天間の自宅庭内にアトリエを構えた真山は平和祈念像の制作に取り掛かります。

現在の交通安全の塔(伊佐)

## 宜野湾市の山田真山の作品

平和祈念像の制作以外にも、真山は立体の作品を制作しています。それが宜野湾市伊佐にある交通安全の塔です。作品が建立された様子は、その当時大々的に新聞や宜野湾の市報に掲載され、現在でも伊佐十字路脇の三差路(旧道) では真山が手がけた交通安全の塔が静かに佇(たたず)んでいます。

他にも、宜野湾市教育委員会が編纂(へんさん)している『宜野湾市史』には真山の描いた絵が使われています。右図の天女は、現在発刊されている『宜野湾市史』の第１巻から第９巻の見返し部分に登場しています。また、この天女の原画を元に制作したと思われるレリーフが森川公園や、宜野湾市役所(正面掲示板横) 、宜野湾市民会館等、宜野湾市のいたるところに存在します。

宜野湾市史の見返しの天女図

このように、宜野湾市に点在する真山の作品を探していくと、真山が地域と深く関わりながら作品を制作していたことがわかります。

皆さんもこの機会に、偉大な芸術家の足跡を辿りながら地元を散策してみてはいかがでしょうか？意外な場所で、真山が残した足取りが見つかるかもしれませんよ☺

# ミニ古地名展を開催中です！

☆市史編集係では、平成 18 年度から市内の戦前の古地名を調査しています。

戦前の字のうち、内陸部の 17 ヵ字の先輩方から、集落の名前や場所と場所を結ぶ道、村の井泉、畑や商店などの生業、祈りの場や戦時中の避難壕、日本軍の施設、屋号などのお話を聞き、戦時中に米軍が撮影した空中写真にそのポイントを記してきました。

このような地域の歴史である古地名をお世話になった地域の方々に見ていただくために、公民館や郷友会事務所で“ ミニ古地名展” を開催しています。

これまで嘉数区、野嵩区、真栄原区(旧佐真下と合同)、喜友名区において展示会を開催させていただき、19 区（愛知・神山）での開催も決まりました。残りの字についても 随時開催していきます。

■19 区ミニ古地名展
日時：2 月 21 日（月）
～3 月 11 日（金）
場所：19 区公民館

ミニデイの時間に展示を見ていただきます
(喜友名)

展示会では、地元の先輩方
から指摘を受けます(嘉数)

■市立博物館 ミニ古地名展
日時：２月９日～２７日
場所：市立博物館ロビー

市立博物館において２月２日から企画展「宜野湾の字展～宜野湾じのーんどぅーむら～」が開催されます。それに合わせ、９日から博物館ロビーにてこれまで展示してきた５ヵ字の古地名地図の一部と安仁屋、字宜野湾の古地名地図を展示します。

## 新城のマールアシビ

2010(平成 22)年 11 月 14 日(日)、新城においてマールアシビが行われました。

新城のマールアシビは、六年に一度、寅年と申年に行われる七年マールの行事で、今年は寅年にあたります。その起源は 1890 年に屋号：ヤマー上江洲のタンメーが始めたと『新城誌』に紹介されています。マールアシビでは「総踊」などの芸能や、組踊「手水の縁」などが演じられます。

マールアシビは屋外のアシビナーで行われますが、今年は天候不良のため、普天間第二小学校の体育館で催されました。

道ジネーの様子

組踊「手水の縁」

## 嘉数高台公園内戦跡整備、完成

これまで進められておりました嘉数高台公園内の戦跡整備工事が2月初旬に終了しております。今回の工事では、嘉数の戦闘を物語る「弾痕の塀」を公園内に新たに設置し、「戦跡総合案内」や「嘉数の戦闘状況」などの説明板も5基設置されております。また、アクセスが不便であった陣地壕やトーチカなどに階段設置や補修などを行ったことで利用しやすくなりました。

☆これを機にぜひ一度ご覧になって下さい☆